勉強をするのは何のためか

人生の問いに、いまの自分で答える



目次

1. 勉強を広く捉え直す
2. 勉強の7つの目的
3. 目的が見えないとき
4. 人生の答え：より納得して生きる
5. 勉強を人生に変える3つのコツ
6. まとめ：答えは固定しなくていい

1. 勉強を広く捉え直す

勉強＝世界を理解し、自分の行動をよりよく
選ぶために、知識や技能や考え方を増やすこと


仕事のやり方を覚える


お金の管理を学ぶ


人との話し方を身につける


自分の感情の扱い方を学ぶ

2. 勉強の7つの目的

1 **生き延びるため**
生活を守る

2 **自由を増やすため**
選択肢を増やす

3 **仕事で価値を出すため**
役立つ力をつける

4 **人とつながるため**
理解し合う

5 **世界を理解するため**
怖さを減らす

6 **自分をつくるため**
軸を育てる

7 **喜びを増やすため**
面白さを味方にする

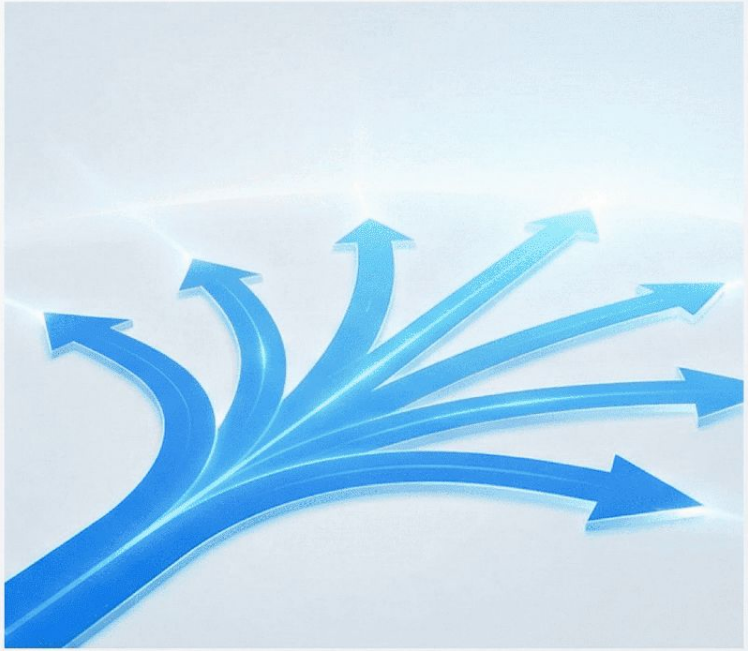
生き延びるため：生活の防具

- 勉強は「生活を守る防具」
- 契約書の読み方 → 損をしない
- 健康・病気の知識 → 危ない判断を避ける
- お金の仕組み → 破綻を防ぐ
- 「避けられたはずの事故」を減らす



自由を増やすため：選択肢を増やす道具

- **勉強は、人生の選択肢を増やす**
- 嫌な環境から離れる手段が増える
- 自分の興味に近い道を選べる
- 問題が起きても立て直しやすい



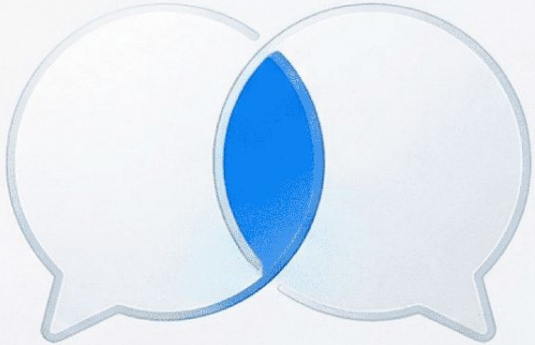
仕事で価値を出すため：信頼を積み上げる



Key Insight: 自分の仕事を「自分で説明できる」ことが信頼につながる

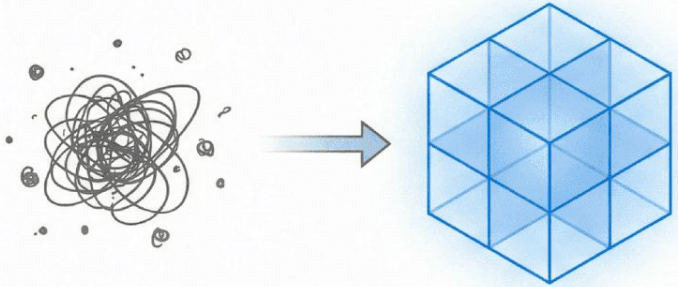
人とつながるため：対話の土台

- 勉強は**「誤解を減らすための道具」**
- 言葉を増やす（感情や状況を説明できる）
- 相手の背景を知る（歴史・文化・心理）
- 論点を整理する



世界を理解するため：怖さを減らす

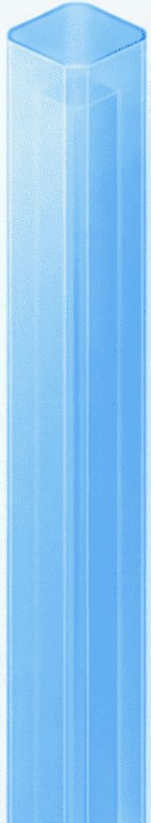
- わからないものは怖い
  → 世界を「だいたい理解できる形」にする
- 仕組みがわかると、必要以上に不安にならない
- 統計や根拠がわかると、煽りに振り回されにくい
- 歴史がわかると、「今だけが異常」だと感じにくい



不安と共存できる強さを育てる

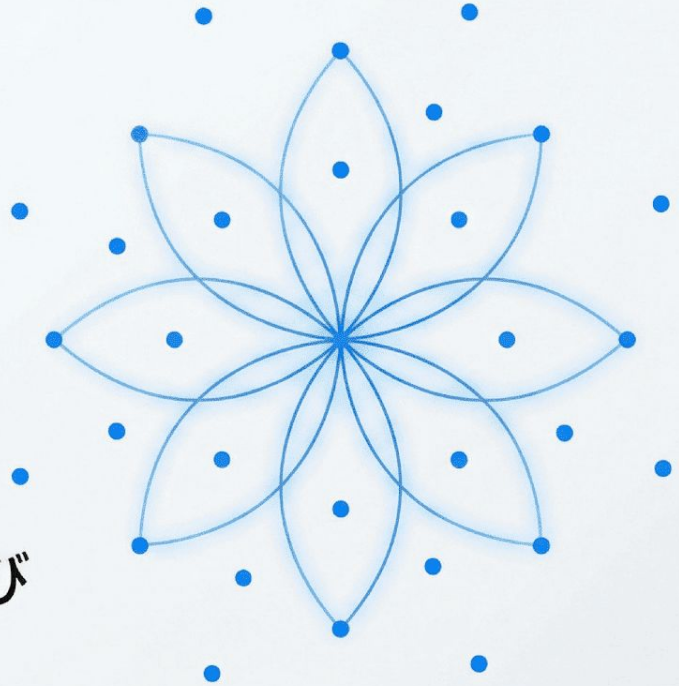
自分をつくるため：人生の軸を育てる

- 経験を言語化し、整理する
- 自分は何が大事なのかを知る
- 他人の声と自分の声を区別する
- **「自分の軸」**を育てる



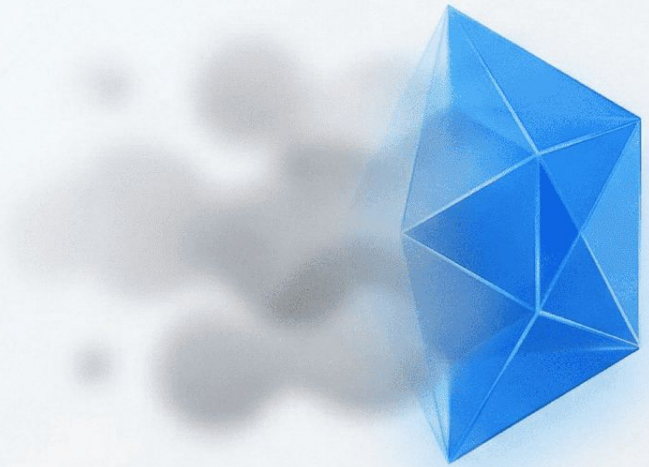
喜びを増やすため：人生を面白くする

- わかる喜び
- できる喜び
- つながる喜び（点が線になる瞬間）
- 美しいものに気づく喜び
- 消費ではなく自分の中で増えていく喜び



3. 目的が見えないとき

- 目標が「他人のもの」になっている
- 勉強が「評価されるため」だけになっている
- 勉強が「罰」になっている
- 学んだものが「使われていない」



勉強は、少しでも使うと意味が戻ってくる

4. 人生の答え：より納得して生きる

勉強は、「より納得して生きる」ためにする



- 選択肢を増やし、失敗を減らす
- 人との誤解を減らし、世界の怖さを減らす
- 自分の軸を育て、面白さを増やす
- 「自分で選んだ」「自分の頭で考えた」と言えること

5. 勉強を人生に変える3つのコツ



1. 勉強の単位を小さくする

・5分で終わる単位に砕く
（単語10個、1ページだけ）



2. 「使う予定」を先に作る

・誰かに説明する、仕事で試す
・アウトプット前提



3. 「何を守りたいか」を言葉にする

・家族、健康、誇り、信頼、好きなこと

6. まとめ：答えは固定しなくていい

「勉強は何のためか」という問いに、永久に同じ答えを持たなくていい。

- 人生が変われば、必要な学びも変わる
- 守りたいものも変わる
- 面白いと思うことも変わる

「今の自分が、守りたいものは何か」